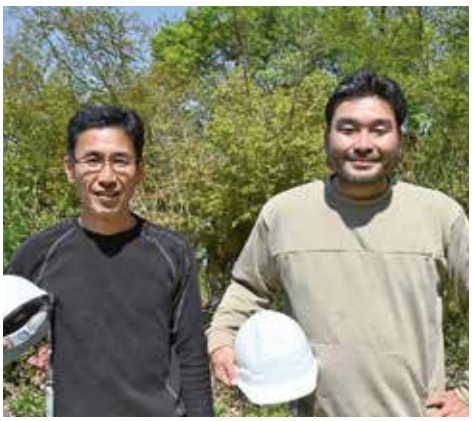
改修工事が進んでいる「乱れ積法」の石段



石段の改修工事に汗を流していた「川内田工務店」の築城さん（右）とスタッフの林さん

常楽寺の石段の積み直しの作業が行われていました

て臨みました。以前の石段の姿を忠実に復元させつつ、事故が起きないためのメンテナンスを十分に施しながら工事を進めています。参拝者の方々が安心して登れるよう、手すりも設置される予定です」と築城さん。「よみがえった山門の石段を楽しみにしていてくださいね」と林さんも汗を流しながら言葉を添えました。

一番高い場所に暮らして

堤がある飯田公園近く、海抜100㍍の”町の一番高い場所“に暮らす飯村家を訪ねました。飯村家の庭に立つと、高台からの絶景が広がります。空気が澄み渡り、晴れた日には、長崎県島原の普賢岳を望むことができるそうです。

「今は町の一番高かところにある家ばってん、ここは昔、常楽寺あたりに広がった飯田村の一部だったとよ。そん頃の飯田村じゃ一番低いところにあったわけで、『新屋敷』て呼ばれよったよ」と教えてくれたのは飯村ヨリ子さんです。お話しぶりも明快で、この春で91歳を迎えたというヨリ子さんの肌つやのいいこと。

聞けば、自宅まわりの段々畑を耕して野菜などを栽培しているそうです。この時季、庭にはツワブキやミョウガタケも顔を出しています。

ヨリ子さんは春と秋、一度に50㌔ほどの大量のみそを仕込むそうです。「楽しみに待ってる人がおんなはると思うと、やりがいがあるですたい」と言うヨリ子さんのみそ作りを手伝っているのが、息子の輝さんです。定年を機に古里に戻ってきた輝さんは「仕事でここを長く離れていたこともあり、あらためて古里の心地よさをかみしめながら過ごしています」と言います。

そんなお2人に、親子で楽しく暮らすこつを尋ねると「お互い、やりたい放題、言いたい放題でいることかな」と笑って答える輝さんの隣でヨリ子さんは「いつでん優しかばっかりじゃいかん。口げんかもせにゃんたい。ばってん親子だけん、あとくさりはなかたいね。それに、わが家は息子よか私の方がまだまだ強かつよ」とウインクも交えてお茶目に笑いました。

気さくに迎えてくれた飯村さん。とってもお元気です

飯村さんの庭には、旬のツワブキ（写真右）やミョウガタケが顔を出しています。この季節ならではのごちそうになります

飯村さんが手作りするみそとつと納豆